

昇天祭木曜日聖体礼儀 (ズナメニイ)

【大連祷】

【第1アンティフォン】第46聖詠、第2調。

(ソロ) 救世主よ、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第一句 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第二句 蓋至上の主は畏るべくして、全地を治むる大王なり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第三句 彼は諸民を我等に従はせ、諸族を我等の足下に従はせたり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

第四句 神は呼ぶ聲に伴はれて上り、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

♪ (繰り返し) 救世主や、生神女の祈禱に依りて我等を救ひ給へ。



【小連祷】(いつもと同じ) <P3 赤本 P4 >

【第2アンティフォン】第47聖詠、第2調

(ソロ) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

(詠) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。(楽譜下)

第一句 主は大にして、我が神の城邑に、其聖山に讚揚せらる。

(詠) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第二句 シオン山は美しき高處にして、其北方に大王の城邑あり。

(詠) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第三句 神は其住所に於て防ぎ護る者として知らる。

(詠) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。

第四句 蓋視よ、諸王集まりて、偕に過ぎ去れり。

(詠) 光榮の中に升起し神の子よ、我等爾に「アレルイヤ」を献る者を救ひ給へ。



続いて

「光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン」

「神の独生の子ならびに言よ…」 <P3-4、赤本 P 5-6>

【第3 アンティフォン】 第48 聖詠、第3 調。

第一句 萬民之を聴け、全地に居る者皆之に耳を傾けよ。

[トロパリ] ハリストス我等の神よ、爾は光栄の中に天に升起、聖神^oを遣すを約して、門徒を喜ばしめ給へり、彼等爾の祝福に依りて、爾が神の子、世界の贖罪主たるを確かめられしに因る。

第二句 我が口は睿智を出し、我が心の思は知識を出さん。

ハリストス我等の神よ

第三句 我耳を傾けて比喻を聴き、琴を以て我が隠語を解かん。

ハリストス我等の神よ

第四句 我が患難の日、我を迫害する者の悪我を環る時、我何ぞ懼れん。

ハリストス我等の神よ

トロパリ

ハリストス われらのかみよ
なんじは 光えいのうちに
せい 神をつかわすを やくして
門徒を よろこばしめ たまえり
かれら なんじの しゆくふくによ-って
なんじが かみの子 世かいの
しゆく^ぎ罪^い 主たるによる

聖入の句 神は呼ぶ聲に伴はれて升り、主はラッパの聲に伴はれて升れり。

トロパリ 第3アンティフォンと同じ

ハリストス我等の神よ、爾は光荣の中に天に升り、聖神^oを遣すを約して、門徒を喜ばしめ給へり、彼等爾の祝福に依りて、爾が神の子、世界の贖罪主たるを確められしに因る。(同上)

光荣 今も

小讃詞 第六調

ハリストス我等の神よ、爾は我等に於ける定制を成し畢へて、地の者を天に合せて、光荣の中に升りたれども、何處よりも離れざりき、乃別るるなく留まりて、爾を愛する者に呼ぶ、我爾等と偕にす、人の爾等に敵するなし。

昇天祭コンダク6調

なんじは われらにおける - 定制を なしおえ - て
地のものを 天に合せて
光荣のうちにのぼりたれども
ハリストス われらのかみよ、いづこよりも
はなれざりき すなわち わかるるなく
とどまりて なんじをあいするものに呼ぶ
われなんじとともにす
ひとのなんじらに てきするなし

【聖三祝文】 <P10 赤本 P14 >

【ポロキメン】 第7調

神よ、願はくは爾は諸天の上に挙げられ、爾の光栄は全地を蔽はん。

句 我が心備れり、神よ、我が心備れり、我歌ひて讚榮せん。

ポロキメン 7調 Znamenie

かみよ 願わくは なんじは 諸天の上に 挙げられ

爾の光栄は 全地を 覆 - わん

【聖使徒行実の読み】 1:1~12

フェオフィルよ、我第一の書を作りて、凡そイイススの始めて行ひし所、誨へし所を録して、其選びたる使徒に、聖神に因りて、命を降して、天に升起し日に迄れり。

彼は苦を受けし後、多くの確證を以て、彼等の前に己の活くるを視し、四十日の間彼等に現れて、神の國の事を語れり。遂に彼等を集めて、之に命じて曰へり、イエルサリムを離れずして、爾等が我に聞きし所の、父の許約せし者を待て。

蓋イオアンは水を以て洗を授けたり、爾等は日久しからずして、聖神に由りて洗を受けん。是に於て彼等集りて、彼に問ひて曰へり、主よ、爾は此の時に於てイズライリの國を興すか。彼は之に謂へり、父が己の権内に置きし時及び期は爾等の知るべき所に非ず。

然れども聖神の爾等に臨まん時、爾等能力を受けて、イエルサリム、全イウデヤ、サマリヤ、及び地の極に至るまで、我が為に證者と為らん。此を言ひて後、彼等の目の前に擧れり、雲彼を接けて、彼等に見えざらしめたり。其升れる時、彼等天を仰ぎたるに、視よ、二人白衣にして彼等の前に立ちて曰へり、ガリレヤの人よ、何ぞ天を仰ぎて立てる、爾等より天に升起し此のイイススは、爾等が其天に升るを見し如く、是くの如く復来らん。

【アリルイヤ】 第2調

神は呼ぶ聲に伴はれて升起、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。

句 萬民よ、手を拍ち、歎の聲を以て神に呼べ。

2調

アリルイヤ アリルイヤ ア リ ル イ ヤ

【福音經】 はルカ 20:36~末節。

彼の時イイスス死より復活して其門徒の中に立ちて曰へり、爾等に平安。彼等驚き且懼れて見る所は神なりと意へり。イイスス彼等に謂へり、何ぞ懼れ惑ふ、胡為れぞ此の意は爾等の心に起れる。我が手我が足を視よ。是我自なり、我に捫りて視よ、蓋神には骨肉なし、其我に有るを見るが如し。

此を言ひて、手足を彼等に示せり。彼等喜に因りて、猶未だ信せず、且異める時、彼曰へり、此に食ふべき物あるか。彼等は炙りたる魚一片と蜜房とを彼に與へたれば、取りて、彼等の前に食へり。又彼等に謂へり、我猶爾等と偕に在りし時、爾等に語りて、モイセイの律法、諸預言者及び聖詠に、我を指して録されし事、皆應ふべしと云ひしは、乃是なり。

其時彼等の智識を啓きて、聖書を悟らしめたり。又彼等に謂へり、斯く録されたり、而して斯くハリストスは苦を受け、第三日に死より復活すべかりき、且其名に因りて、悔改し諸罪の赦とは、イエルサリムより始めて、民に傳へらるべきなり。

爾等は此等の事の證者なり。視よ、我は我が父の許約せし者を爾等に遣さん、爾等イエルサリムの城に居りて、上より能力を衣するに迄れ。イイスス彼等を外に率ゐて、ウィファニヤに至り、手を挙げて彼等に祝福せり。祝福する時、彼等を離れ、挙げられて、天に升れり。

彼等之を拝し、大に喜びて、イエルサリムに帰り、恒に殿に在りて、神を頌美祝讚せり、「アミン」。

「常に福」に代えてイルモス第9歌頌

我がたましいよ 地より天にのぼりしハリストス
いのちをたまう主をあがめ讃む
5glas
爾悟りがたく解き難く神のははとなり
時のうちにおいて時に縁らざる主を生みしものを
われら信者はこころをいつにしてあがめ讃む

【領聖詞】 第46聖詠

神は呼ぶ聲に伴はれて升り、主は喇叭の聲に伴はれて升れり。「アレルイヤ」。三次

第四十六聖詠

伶長に歌わしむ。コレイの諸子の詠。

萬民よ、手を拍ち、歡びの聲を以て神に呼べ、
蓋至上の主は畏るべくして、全地を治むる大王なり、
彼は諸民を我等に従わせ、諸族を我等の足下に従わせたり、
主は我等の為に嗣業を選べり、即其の愛する所のイアコフの栄えなり。
神は呼ぶ聲に伴われて升り、主は喇叭の聲に伴われて升れり。
我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、
蓋神は全地の王なり、皆知恵をもって歌えよ。

神は諸民の王となれり、神は其の聖なる宝座に坐せり。

諸民の牧拍はアウラムの神の民に聚まれり、蓋地の盾は神にあり、彼は其の上に高く挙げられたり。

昇天祭領聖詞

長いバージョン

か み は
呼 ぶ こ え に
と も な わ れ て の
ほ れ り

短いバージョン

か み は 呼 ぶ こ え に
と も な わ れ て の ほ れ り
ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア --- リ ル イ ヤ

昇天祭 エクサポスティラリー

ハリス トスよ 門徒が あおぎ 見る と き
なん じは ちちに のぼ りて ともに 坐したまえり
天使らは まえに すすみ て 呼 べ り
拳 げよ、 門を 拳 げよ、
王 が 原 始の
光 えいに のぼ り た まえり

The image shows a musical score for a hymn. It consists of six staves of music, each with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The lyrics are written in Japanese below the notes. The music is a simple, melodic line with various note values including quarter, eighth, and sixteenth notes, along with rests and ties. The lyrics describe the ascension of Christ, mentioning the apostles, angels, and the Father.